



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

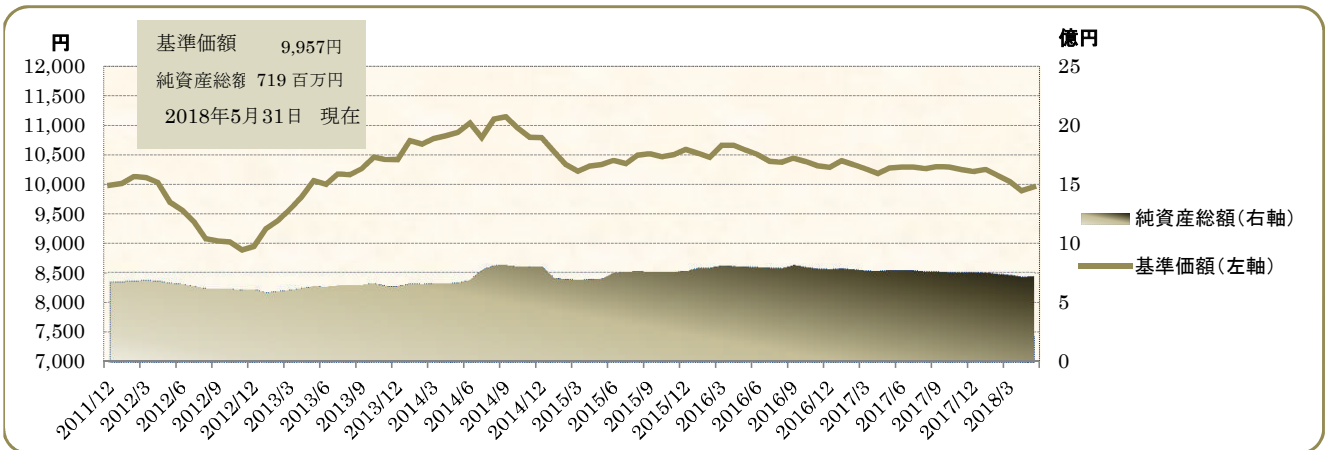
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2018年5月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

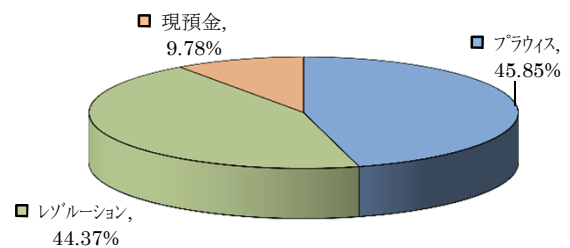
2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.35%	-1.02%	-0.98%	-1.61%	0.69%								-2.56%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%	-0.41%	-0.31%	-0.65%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673 百万円	
基準日:	2018年5月31日	
基準価額:	9,957円	対前月比 68円
純資産総額:	719 百万円	対前月比 +2.9 百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-1.90%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.87%
設定来	ファンド	-0.43%
基準価額騰落率	TOPIX	141.51%
	日経平均	164.25%

投資対象ファンドへの資産配分 (2018年5月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2018	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	1.14%	-0.92%	-0.41%	-0.87%	2.06%								0.97%
レゾリューション	0.25%	-0.71%	-1.14%	-2.10%	0.05%								-3.62%
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%	-0.02%	0.13%	3.82%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%	-0.30%	-0.22%	1.36%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A ※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS1」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFS1の基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

5月の株式相場は、日経平均で1.2%下落の22,201.82円、TOPIXで1.7%下落の1,747.45ptとなりました。月の前半は、中東情勢リスクが意識されたものの、18年3月期の主要企業の決算発表が相次ぎ、好業績銘柄に対して買いが集まりました。月の後半は、米中貿易摩擦の激化、北朝鮮情勢の悪化、イタリア・スペイン等南欧の政治リスクへの懸念が高まったことから、下落しました。

上旬は、連休の谷間は積極的な売買を控えた投資家が多かったものの、決算での明暗をそのまま反映する傾向が強かったといえます。米国のイラン核合意からの離脱表明は相場の重荷となりましたが、WTI先物の上昇から資源関連が堅調でした。

中旬は、好決算や自社株買いを発表した銘柄が相場を押し上げましたが、GDP速報値が9四半期ぶりのマイナス成長となり、相場の重荷となりました。その後、ドル円が110円台で推移したことや、機械受注が好調だったこと、WTI先物の上昇などから、外需、金融、資源関連などの買いを誘いました。

下旬は、米朝首脳会談の中止報道が相場を押し下げました。その後、南欧の政治リスク懸念も広がり、ドル円は108円台まで円高が進行、株価は調整色を強めました。

セクター別騰落率では、サービス、化学、陸運、水産・農林、精密機器が上位となり、鉱業、海運、非鉄金属、証券・商品先物取引、パルプ・紙が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.58兆円と、活況の目安となる2兆円を19ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが1.3%の上昇、東証マザーズ指数は0.6%の下落となり、いずれもTOPIXをアウトパフォームしました。

ファクター面では、低リスク株や高くオリティ株優位の環境が継続しました。円安や原油高、米金利上昇が一服したことが背景にあり、月末にかけて欧州を中心に政局リスクが高まると、低リスクシフトが再加速しました。このような中で、バリュエーターの不振は際立っており、B/Pファクターリターンは1年ぶりの大幅マイナスを記録しました。一方、グロースとしては、経常利益成長率ファクターリターンがプラスではありましたが僅か+1.15%にとどまり、このプラスは高成長株が買われたというよりも低成長株が売られたことによるもので、同時期のグローバル株式市場と比較しても、力強さを欠く内容となっています。ここでも、日本株が外部環境を巡るリスクにネガティブに反応しやすくなっている状況が窺えます。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブライウス】

〈ファンド運用状況〉

5月の運用成績はJPYクラスで+2.06%となりました。外部環境の不透明感が強まったことで、内需ディフェンシブ銘柄が選好され、割高な銘柄がさらに上昇したことで内需セクターのパフォーマンスは悪化しました。しかし、ロングの比率が高かった黒鉛電極銘柄が想定を大幅に上回る業績予想を受けて急騰したことにより、月間の運用成績はプラスとなりました。

セクター別の損益では、ガラス土石、電機、情報通信、輸送用機器セクターでプラスとなり、小売、機械、医薬、サービスセクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

6月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。米国の通商政策に対する不透明感や欧州の政局不安から、引き続き上値の重い展開となると考えます。一方で下値では日銀によるETF買いがあることから、下値余地も限定的と思われる。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

5月の株式市場は、月後半にむけて、バリュエーターの大きな劣位、グロースやローリスク銘柄が優位な相場展開となりました。小型株の売買代金は、引き続き低水準となっています。

ポートフォリオは、電気のオーバーウェイトをやや縮小させ、情報、サービスのセクターのオーバーウェイトを維持しました。全体として、外部環境に左右されにくく、自立成長が出来るような内需グロースベットのポジションにあります。また、業績安定性の高い銘柄について組入を増加させています。

ファンドパフォーマンスは、小型内需グロース株のロングのプラス寄与があり、一方で、バリュエーター銘柄のマイナスや個別銘柄の業績見直しによるロング銘柄のマイナス寄与などから、全体として十分な収益確保とはなりません。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

小型株劣位の状況は解消に向かうと思われませんが、ポートフォリオ全体の大きなキャラクター変更は予定せず、新年度の業績見直しを考慮した個別判断による銘柄入替を進めます。

内需グロース株は短期的なバリュエーション変動の影響を受けやすいものの、中長期的に見れば小型株銘柄として有望であると考えております。

グローバル経済の好調さを前提にしながらも、株式市場においてはシクリカル銘柄への楽観的なスタンスを取り難いため、引き続き個別業績に着目した銘柄選別を行います。

引き続き内需グロース銘柄を中心としながら、中期的な時間軸で、新年度以降の業績反転が見込まれる銘柄のロング組入を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティール・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**